'04.10.1
No.23

東京鷹桜同窓会報

長井高等学校校舎とグランド（撮影：水野多門先生）

巻頭の言葉

同窓生資料館を創ろう

木村　繁
㈱ 樹村房 社長

山形県立長井中学校、第１回卒が大正14年、来春には第79回卒が巣立つ。その間、幾多の俊英、俊才が輩出されてきた。ここに、大正13年から昭和28年まで一貫して長井中学に奉職され、多くの生徒に影響を与え続けた佐藤剛先生（後９年間は校長）がおられる。強力に影響を受けた学年の一つに昭和４年卒がいる。「己巳(きし)会」という。昭和４年は「己巳(つちのとみ)年」であることから剛先生が名付けられたという。この中に宮内町出身の小田仁二郎がいる。長中在学中に同人誌『火花』を創刊。早稲田大学仏文科在学中、中原中也らの『紀元』同人になり、戦後の前衛文学の先駆けといわれ、鬼才として注目を浴びる。1952年、『早稲田文学』に発表した「昆虫系」、翌年『文学界』に発表した「メルヘンからかさ神」がいずれも芥川賞候補となったが、既成文壇の先を走っていて十分な理解が得られず、受賞ならなかった。この間、瀬戸内晴美と同棲、瀬戸内をして「私を小説家にした人」と言わしめた。小説を書いて生活が成り立たない時、同期の渋谷利蔵は二人を援助したという。この己巳会の渋谷利蔵、桑島喜平らが東京鷹桜同窓会の礎をつくったのだった。

我らが同窓生には、第１回卒の長沼孝三（彫刻界の重鎮）、長中時代に剣道で全国制覇、御前試合をして天皇陛下から一振りの刀剣を拝領した金原覚雄（第２回卒）ら素晴らしい卒業生が誇らしく居並ぶ。著作物、書・画・彫刻・音楽などの芸術作品、スポーツほか、同窓生の偉業を讃え、顕彰し、その足跡を遺す資料館を今こそ創ろうではないか。このことは水野多門先輩（第20回卒）から既に提案がなされている。ぜひ実現したい。

（昭和28年卒）

同窓生の皆様から
元気を戴きながら

水野多門
元長井高等学校校長

東京鷹桜同窓会の皆様、お元気で御活躍の事と慶祝申し上げます。歴史と伝統を持つ東京鷹桜同窓会の恒例的な事業として、総会及び懇親会にはたくさんの在京同窓の方々が参加され、故郷を想い同窓の友と語り合いながら親睦を深め、明日への活力を蓄積されておられます事に、深甚の敬意を申し上げます。

お陰様で貴会を範として各地に創設された支部の運営も年毎に充実発展の様子と拝聞し、心からお慶びを申し上げますと共に、折に触れて母校や郷里のために一層のお力添えを賜りますよう切にお願い申し上げます。

先日も鷹桜同窓会秋田支部の皆様が支部長さん先頭に母校を訪問くだされ、変貌する早苗が原の学舎と不変の建学精神を基に文武両面にわたって成果を上げている実情を視察され、部活動の後輩たちに檄を賜りましたが、新たな支部活動の一つであったと感銘を受けた処であります。

私が在任中、東京鷹桜同窓会の総会にお招きを戴きました帰路に、本部の村山前会長と支部結成の重要性を論議しながら早速地元の支部つくりに取り組んだ事を懐かしく思い出しながら、皆様の同窓会活動の益々の御発展を祈念申し上げる次第であります。

さて私は昭和62年に退職以来16年にわたってシルバー人材センターにお世話になっております。御承知のように、シルバー人材センターは現役時代に培ってきた知識や技能を地域の要請に応じて提供し、生き甲斐のある人生を過ごす目的で法人化された高齢者の団体で、現在は全国に2400団体、80万人の会員を擁する組織であります。

山形県では全市町村にシルバー人材センターが設置され、活力ある高齢社会の担い手として重要な役割を果たしていますが、会員の中には同窓生も活躍しておられ、また師弟関係の方もおられてたいへん助けて戴き感謝しております。私も会員の一人として折々に現場に出たり、あるいは県や東北ブロックの役員会に出席したりと、仲間たちと元気に楽しく働いておりますが、色々な会議に出席しますと、初めてお会いする方でも同窓生の御縁で懇切な御指導を戴く事がしばしばありますので、広いようで狭い世の中を改めて実感しながら同窓生冥利に感謝を申し上げております。

ともあれ、健康に恵まれ同窓の皆様に御高配を

シルバー人材センター会員と雪囲い作業中の私です

人間国宝の宇治紫文さんと一緒の家内です
(私宅を来訪下さった時)

ヌイロパポスの丘に集合の参加者（左から３人目が高橋康雄氏、右から３人目が横山太吉氏、後ろに見えるのがアクロポリスのパルテノン神殿）

エピダヴロスの円形野外劇場で山形県民歌を熱唱中の横山太吉氏

賜りながら充実した毎日を過ごすよう努めておりますので、何とぞ御放念くださいますようお願い致します。

ところで、会報編集委員の丸川満氏より昨年の会報に執筆するように依頼されましたが、８月末からのギリシャ旅行のために出来ませんでした。実は、昭和30年卒業生のクラス会が同クラス出身の高橋康雄氏（長井市西根出身で外務省ＯＢ、現在ギリシャにアテネ出身の奥様とアテネ市街地に居を構えて活躍中。今年の秋、母校長井高校の文化講演会に帰国予定）の発案により、アテネでのクラス会が実現し、その旅行に参加する事になったからでした。

海外でのクラス会は、国内の恒例とは異なって緊張感ある楽しさを味わいましたが、それにも増して紀元前500年頃の歴史に目を見張り、人間の知恵と技術に驚嘆し、新しい出会いと感動の８日間を過ごした素晴らしいクラス会でした。わずか７名の参加でしたが、良い思い出となりました。特に紀元前400年前に造られたエピダヴロス遺跡の円形劇場（55段の円形観客席で14,000人を収容できる音響効果の優れた野外劇場）では、同行の横山太吉氏が県民歌「広き野を…」を斉唱し各国の観光客から万雷の拍手を得た事は、実に素晴らしい出来事でした。さらに、ショー・レストランでは山形の花笠音頭が奏でられ、喫驚したり喜んだりの旅でありました。

いよいよ実りの秋を迎え“山錦繍に映ゆる時”が近づいてきました。皆様の一層の御健勝と御多幸を心よりお祈り申し上げ、そして東京鷹桜同窓会の更なる御隆盛を祈念申し上げながら筆を置きます。

秋の叙勲 喜びの声

梅津ふじさん（昭和27年卒）
旭日中綬章 叙勲
おめでとうございます

遅ればせながら御祝いを申し上げます

（2003年11月3日付け読売新聞より転載）

＊旭日中綬章

一中節浄瑠璃演奏家

宇治紫文（うじしぶん）さん 70

「何かの間違いじゃないかしらん、と思ってしまうんですよ」。今回から女性にも贈られることになった旭日章の受章に戸惑いながら、「今まで支えて下さった方たちの代表としてたまたま私が受け取ることになった、ということでしょうね」と笑顔をみせた。

十八世紀はじめ、僧侶の都一中（みやこいっちゅう）が始めた「一中節浄瑠璃」は、三味線などを伴奏に物語を語る「語り物音楽」の中でも特に温雅なことで知られる。十一歳から琴を学び、二十歳のころ、一中節浄瑠璃に魅せられた。数年後の一九五八年、六世宇治紫文に入門。琴を三味線に持ち替えて、語りの世界に飛び込んだ。

先人の感性 伝え続け

「日本語が最も美しく聞こえるような節付けがされている。歌うほど、言葉を大切にしてきた先人の感性に驚かされる」

九一年に七世を襲名した後、情景や登場人物を格調高く語り分ける高い技術や芸術性が評価され、紫綬褒章、重要無形文化財保持者の認定を受けた。

最近、若い人の入門が増えているのがうれしい。「微妙な間や節回しは、楽譜などの形に出来ないものだからこそ、直接伝えていきたい」。その声は、張りに満ちていた。

コーラスとオペラに魅せられて
ー音楽スタジオ日記からー

武田律子
スタジオ・ドルチェ代表

ある時には、女性合唱団の練習があります。ミュンヘン生まれのグループですが、日本に帰国してからも、親睦とドイツ語をキープすることを兼ねて練習日をもうけ、楽しいひと時を過ごしているようです。

そうかと思うと、厳しいレッスンについて行けず、涙しながら叫ぶ音大受験生たちの「くやしい。どうしても声が出ない！」という声や、彼らを叱咤激励するオペラ歌手兼教授たちの大きな声などが、つい耳元で聞こえる時があります。

また、オペラの音楽レッスンといって、コルベティツーアによる音合わせをしているオペラ歌手たちの素晴らしい歌声が、スタジオ内に響き渡るように聞こえてくる時もあります。

私は10年ほど前から、渋谷で小さな音楽スタジオを経営しています。それまではコーラス好きの普通の主婦でしたが、知人のオペラ歌手からの要請もあって、スタジオを開設することになりました。娘も音大を卒業して、オペラ養成所で勉強し始めていた時でもあり、主人も趣味と実益を兼ねてやったらどうかと勧めてくれたからです。

元来、私もオペラが大好きで、内外のオペラ劇場にはどれだけ足を運んだか分かりません。その歌手たちの稽古風景が、目の前で見聞きできるとあって、なんという楽しい日々が送れるだろうと小躍りしました。

しかし、華やかな舞台の上では見ることの出来ない厳しい練習風景を見ているうちに、音楽に対する考え方が変わってきました。天性の才能と限りない努力、そしてチャンスがうまく絡み合って初めて花開くのです。でも、恵まれて花開く人はごくわずかしかいません。これは、どの世界にも通じることでしょうが…。

現在、コーラス人口は1000万人いると言われ、そのレベルも高く世界的です。ボイストレーナーや音楽指導者として活躍している歌手たちも、実に大勢おります。

私のスタジオでも、プロ・アマを問わず厳しくも楽しい日々を送って頂いております。このスタジオから大きく成長していく歌手をそっと見守り応援していくのが、今の私の喜びであり生き甲斐であります。

(昭和34年卒)

絵てがみ
「れんこん電話」

絵てがみ
「なつかしいポスト」

スケッチ
「吉良家の寺 勝光院」

土屋東一氏（常任幹事）の奥様、土屋淑子さんの作品です。

東京鷹桜同窓会
2003年総会

校歌を歌って
記念の
写真を
ハイパチリ！

◇ 事務局からのお知らせ◇

［活動報告］（事務局長・安部俊彦）

平成15年度は、10月に事務局員と有志25名にて総会案内の発送作業を行い、11月15日に総会及び懇親会を神楽坂エミールにて開催しました（参加者90余名）。

平成16年度は、８月に学年幹事会がもー吉にて開かれ（参加者30名）、総会の開催は11月20日、飯田橋のエドモントホテルに決定しました。また、話し合われたことを以下に報告します。

まず、永く本同窓会の中心的役割を担ってこられた木村繁副会長より、体調等の理由で辞任したいとの申し出が報告され、了承されました。後任には須藤勝味氏（昭和46年卒、西大塚出身、現在ＴＤＫコア社長）を推薦することになりました。

一昨年、当会に300万円という多大な御寄付を頂いた川野カツ先輩が、昨年の総会を目前にしてお亡くなりになりました。役員が葬儀に参列し、長患いもなく大往生であったとの由、総会で報告致しましたが、皆様に重ねて御報告申し上げ、改めて大姉の御冥福をお祈りしたいと思います。

今回の学年幹事会では、この浄財の使い道に関して事務局の提案が出され、話し合われました。各学年の懇親会を充実して頂くために、年１回を限度に一定額を補助金として使わせて頂くという事務局案に対して、飲み食いだけで貴重な浄財を使い果たすことは良くない、将来も当会を末永く維持して行くために残しておくべきだ、など異論が出ました。その結果、会員の皆様に知恵を出してもらい、あせらずに決めていこうという結論になりました。総会出欠ハガキの通信欄などを使って、皆様の御意見をお寄せ頂ければ幸いです。

［平成15年度会計報告］

〈収入〉		〈支出〉	
前年度繰越金	870,392	総会費	523,067
年会費	743,460	事務費	320,734
総会費	376,000	会議費	78,000
御祝金	15,000	通信費	297,690
受取利息	32	印刷費	281,147
		税金	5
計	2,004,884円	計	1,500,643円
		次期繰越金	504,241円

◇編集後記◇

バブルの頃、自治体を始め多くの組織・団体の広報はカラー印刷で花盛りでしたが、いまは大概モノクロか２色刷りです。東京鷹桜同窓会報は、創刊以来モノクロで印刷してきましたが、同窓生相互の更なる親睦の喚起を期待して、今回、半分のページをカラー印刷にしました。予算の都合で総カラーとはいきませんが、グレードアップした会報を新鮮な気持ちで読んで頂ければ幸いです。

副会長の木村 繁氏には、「巻頭の言葉：同窓生資料館を創ろう」という提言を書いて頂きました。皆様の御意見を是非お寄せ下さい。

水野多門先生には、昨年「移り変る長井の自然やシルバー人材センターについて書いて下さい」と依頼致しました。ところが、急にギリシャでの同窓会に御出席とのことで、昨年の会報には間に合わず、しからばギリシャでの同窓会についても書いて頂き、今年の会報に掲載させて頂くことになりました。いつも我々同窓生を励まして下さる先生には、本当に頭が下がります。巻頭の母校の写真も、本会報のために先生がわざわざ撮影して下さいました。心より御礼申し上げます。

梅津ふじさんが、昨年の11月３日（文化の日）に「旭日中綬章」を叙勲されました。読売新聞の記事を拝借し、遅ればせながら御祝いを申し上げます。そして益々の御活躍を祈念申し上げます。

武田律子さんには、音楽スタジオ経営の傍ら、日ごろ感じたり思ったりしたことを書いて頂きました。コーラスやオペラをとおして親睦を図ったり、また若手の成長を見守ったりすることが喜びであり、生き甲斐であるそうですが、きっと若さの秘訣でもあるのでしょう。これからも頑張って下さい。

常任幹事の土屋東一氏の奥様、淑子さんが描かれた「絵てがみ」の作品２点と「スケッチ」１点を拝借し、掲載させて頂きました。同窓会でも、同窓生同士の心の繋がりが大切です。その気持ちを心の底から呼び起こしてくれる作品だと思います。誠にありがとうございました。

昨年の総会の写真は、事務局の藤野由美子さんと佐藤いく子さんが撮影してくれました。お二人とも腕は一流です。感謝申し上げます。　（丸川）

東京鷹桜同窓会報　第23号
発行日：平成16年10月１日
発行人：東京鷹桜同窓会
編集委員：丸川　満
〒191-0065　東京都日野市旭が丘1-14-13

＊東京鷹桜同窓会：長井中学・長井高女・長井南・長井北・長井高校の卒業生による東京首都圏在住者の同窓会組織
＊事務局：〒107-0052　東京都港区赤坂１-６-14　赤坂協和ビル204
土屋東一法律事務所内（電話：03-5570-5834）